平成２２年３月の解説（府県天気予報）

【３月の天候状況】

上旬は低気圧が短い周期で次々と本州付近を通過し、全国的に曇りや雨の日が多くなりました。気温は、旬前半は暖かい空気に覆われたため高くなりましたが、後半は寒気が入ったため低くなりました。中旬は、天気は数日の周期で変わりました。暖かい空気が入ることが多く、中旬をとおして気温は高くなりました。下旬は、21 日に低気圧が北日本で発達したため全国的に大荒れの天気となり、北海道を中心として記録的な暴風となりました。また、低気圧の通過後は、全国で黄砂を観測しています。旬中頃に本州の南岸を進んだ低気圧の影響で、東・西日本では曇りや雨となり、その後寒気が流れ込んだため全国的な低温となりました。

月を通しては、低気圧や前線の影響を受けた日が多かったため、日照時間が北日本と東日本を中心に平年よりかなり少なくなり、月間日照時間の最小値を更新した気象官署がありました。また、降水量は東・西日本を中心に平年よりかなり多くなり、月降水量の最大値を更新した気象官署がありました。一方で、高気圧に覆われることの多かった（あるいは低気圧の影響を受けることの少なかった）南西諸島では、日照時間は平年より多く、降水量は平年よりかなり少なくなりました。気温は東日本から南西諸島にかけて平年より高くなりました。

【３月の検証結果】

17 時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は明日予報で 83%と例年(注)並み、明後日予報では 83%と例年より 4 ポイント高くなりました。地域毎の適中率では、明日予報は沖縄と北陸地方がそれぞれ例年より 9 ポイントと 6 ポイント高くなりましたが、その他の地方ではほぼ例年並みになりました。明後日予報はほとんどの地方で例年より高く、関東甲信、東海、九州南部地方では 6 から 9 ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差は例年に比べて北海道、近畿、沖縄地方で 0.3℃から 0.5℃小さくなりましたが、その他の地方はほぼ例年並みになり、全国平均では 0.1℃小さい 1.7℃でした。また、最低気温の予報誤差も全国的にほぼ例年並みとなり、全国平均では例年より 0.1℃小さい 1.5℃でした。

（注）例年値は気象庁ＨＰ（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【５月の天気予報の利用にあたって】

5 月の天気の特徴の１つは、東西に長く伸びた高気圧に覆われて晴れる日が続くことですが、時には低気圧が発達しながら通過して大荒れの天気となることや、本州の南岸に前線が停滞して曇りや雨の日が続くこともあります。

また、晴れていても、大気の状態が不安定となり、雷、突風、局地的な大雨などもしばしば発生します。野外での活動を計画する場合には、天気予報で気温、風、天気などの気象状況を事前に確かめた上で、天気の急変などに備えていただくことが大切です。